

JC NEWS

12月号

Vol.806

- ・長崎JCを深堀る！
～理事長鼎談～
- ・お殿様・お姫様アンケート
- ・フォローアップセミナー
- ・11月会務室担当例会
- ・12月例会・定時総会

一般社団法人長崎青年会議所

今後のJCニュースに活かして
参ります！！アンケートのご回
答を宜しくお願ひ致します。



一般の方は
👉コチラ



特別会員は
👉コチラ



正会員は
👉コチラ

目次

特集

<u>理事長挨拶</u> 3 P
<u>長崎JCを深堀る！</u> 5 P
<u>お殿様・お姫様アンケート</u> 13 P
<u>11月会務室担当例会</u> 運動を起こす原動力～16万円の価値を問う～ 17 P
<u>12月例会・定時総会</u> 18 P
<u>2025年度の例会を振り返り</u> 19 P
<u>フォローアップセミナー</u> <u>Re:ADY FOR TOMORROW</u> ～ゼロから始める防災意識改革～ 20 P
<u>THE FIRST TALK</u> ～ミャクミャクと受け継がれるJCソウル～ 21 P
<u>じゃがいも俱楽部 12月例会</u> 23 P

理事長挨拶

2025年1月から毎

月、理事長としての活動を通じて感じたこと、そしてに伝えしたい想いを

JCニュースに掲載して参

りました。本号を含め、今年度のJCニュースをご覧いただいた皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

私自身は、一度JCを退会し、再び入会したという異色の経歴をもっております。そうした立場の私が、歴史と伝統ある長崎青年会議所の理事長に立候補しています。その立候補してよいのか、大きな葛藤を抱いた時期もございました。しかし、自らの経験を振り返ったとき、その経歴があるからこそ、JCに真摯に向き合う会員はもちろん、JCとの距離感に悩む会員の思いにも誰より理解でき、

何かを伝えることができるのではないか——そのようにに考え、覚悟を決めました。



予定者期間を含めた一年半、ただがむしゃらに理事長という「職」を務める中で強く感じたことがあります。それは、各人が青年会議所において与えられた役割（職）を演じることはあっても、「役職」そのものがひとの価値を決めるものではありません。会員一人ひとりは職業も年齢も異なり、それぞれの分野のプロフェッショナルとして、自らの人生を歩んでいます。そこに優劣はありません。どこまでいっても、青年会議所の活動・運動の源は「会員そのひと」にこそあります。



その会員同士が役割を担い合ながら、いかに信頼関係を築き、それを維持していくか。その過程にこそ価値があります。相手に何を感じていただけるか、自分をどう理解してもらうか、そして互いにどう心を通わせるのか。その積み重ねが重要です。また、そのような環境に身を置けていることにも敬意と感謝の気持ちを持つことは、極めて基本でありながら、何より大切な姿勢だと感じています。それが自然と身につき、各人が言葉に出して表現できるようになつたとき、団体としての勢いは更に大きくなるようになります。JC活動・運動は高まり、JC活動・運動は何倍にも広がっていくことでしょう。そして、目の前にある機会は誰に対しても

平等に与えられています。それを掴むのか、あるいは見過ごすのか。その選択によって得られるものは大きく異なり、結果は全て自身に返ってきます。その返ってきた結果をどのように評価するのか、意義を見出すことができるかは、他の誰でもなく自分次第です。自らを「まかすことはできません。敬意と感謝の気持ちを持って、自身が不完全であることを受け止めながら、目の前の課題に愚直に、泥臭く取り組んでいくつてほしいと思います。」

第73年度、本当にありがとうございました。第74年度も寺澤理事長予定者のもと、更なる加速を目指して、全員で歩みを進めて参りましょう！

長崎JCを深掘る！ ふか ぼ

～理事長鼎談～ てい だん



第72年度理事長

田添 太一君

第73年度理事長

種田 和彦君

第74年度理事長予定者

寺澤 孝憲君

事業の裏側や構築への想いを様々な角度からお届けしてきた「長崎JCを深堀る！」も、今回がついに最終回。ラストを飾るのは、長崎JCの理事長鼎談です！現役会員として、それぞれの立場から「JCとは何か－活動・運動の意味と意義」をテーマにお話を伺いました。JCの本質に立ち返り、「なぜ私達は活動・運動を続けるのか」という根源的な問いに迫る内容です。



平和タクシーグループ
代表取締役

田添 太一 直前理事長

- 第58年度 観光活性化委員会
 第59年度 観光活性化委員会 運営幹事 長崎ブロック 市民意識醸成委員会
 第60年度 広報戦略委員会 副委員長 長崎ブロック 市民意識醸成委員会
 第61年度 会員開発委員会 委員長
 第62年度 交流委員会 日本青年会議所 人間力大賞運営委員会
 第63年度 希望室 室長
 第64年度 JCビジョン策定委員会 日本青年会議所 全国大会運営会議
 第65年度 拡大推進委員会 九州地区 九州創生委員会
 第66年度 青少年育成委員会 長崎ブロック 憲法改正推進委員会
 第67年度 専務理事
 第68年度 会員室担当 副理事長
 第69年度 監事 日本青年会議所 規則審議会議
 第70年度 70周年委員会
 第71年度 監事
 第72年度 理事長
 第73年度 直前理事長 長崎ブロック 監査担当役員



弁護士法人
福田・木下総合法律事務所
長崎オフィス所長

種田 和彦 理事長

- 第63年度 地域推進委員会
 第64年度 (退会)
 第65年度 (復会)総務推進委員会 長崎ブロック 災害関連委員会
 第66年度 例会委員会
 第67年度 総務委員会 長崎ブロック アカデミー委員会 委員長
 第68年度 事務局長
 第69年度 例会委員会 拡大幹事
 第70年度 70周年委員会 副委員長
 長崎ブロック 意識改革推進委員会
 第71年度 経済室 室長
 第72年度 会務室 副理事長
 長崎ブロック デジタル総務委員会
 第73年度 理事長



(株)西海建設
代表取締役社長

寺澤 孝憲 専務理事

- 第69年度 交流委員会
 第70年度 拡大委員会 運営幹事
 第71年度 イノベーション推進委員会 委員長
 第72年度 未来室 室長
 日本青年会議所 TOYP委員会
 第73年度 専務理事



11月某日、事務局に長崎青年会議所の3世代を代表するお三方にお集まりいただきました。田添直前理事長、種田理事長、そして寺澤理事長予定者。それぞれの立場から「JCとは何か」「変わらない価値、変わるべき点」について伺っていきたいと思います。



「成長の場」

一早速ですが、核心に迫りたいと思います。ズバリ、JCって何だと思いますか？

田添 一言でいえば『JCはどこまでいっても根底はリーダー訓練』だと思う。成長を求める青年経済人が、自らを磨くために選んで集まる組織。ひとが育てば、まちも良くなると思ってる。理事長でも委員長でもフォロワーでも、役職は「成長するための手段」。より良くなりたいという気持ちは、皆同じだと思うんだよね。



種田 僕も田添直前がいう「成長」が本質だと思う。自分ができないことを知ることが、成長のきっかけになる。40歳までの限られた時間の中で自分を追い込んで、意味を見出すことが大切。とにかく、まず動くことが大事。理事でもフォロワーでも、自分なりの方法で追い込み、意味を見出すことが大切。僕も再入会した頃は何も分からなかったから、気づくタイミングはひとそれだと思う。

寺澤 JCは、理事長が社長、直前が会長って感じで会社組織に置き換えて役職を経験できる場所だと思う。家業の跡取りで、他所での下積みしないまま社長になるひともいるけど、JCなら皆平等に下積みを経験できる。一生懸命やっていれば失敗してもノーリスクで成功すれば評価される。16万円の年会費の価値もそこにあると思うし、自分で機会を掴みにいった方がいい。役を受ければ『人をどう育てるか』『事業をどう構築するのか』を経験できる。それがJCの本質だと思います。

一お三方はJC歴もそれぞれですが、様々な役を受けた末に理事長職まで辿り着かれました。どうJCに向き合って来られたのですか？心構えなどもあれば教えて下さい。

種田 僕は「変わるきっかけ」という意味では、2019年に長崎ブロック協議会に出向して、初めて委員長をやったときかな。再入会して楽しくなってきた時期だけど、委員長は良い意味で本当にキツかった(笑)。「自分は何もできない」って痛感したし、その中で多くの学びがあった。同じLOMなのに誰よりも厳しい寺岡歴代、その横で更に怖かったのが当時専務理事の田添直前で、ブロック事業でもLOM動員でもまず専務に電話しなきゃいけない。その一本の電話すら怖かった。いまだに電話帳登録名は『2019年田添専務理事』のままであります(笑)

寺澤 絶対鬼の絵文字つけてますね(笑)。

種田 一番怖かった田添さん(笑)。でも、動員など誰よりも一番動いてくれて。温かい言葉を掛けてくれました。きっかけはひとそれぞれだけど、やる意味を見つければひとは変わるとと思う。分からなくても、その感覚があれば自然と前向きになれる。



寺澤 自分が役を受けてきたのは「西海建設の寺澤」としても評価されなければという気持ちもある。『はいかYESか喜んで』で役を受けてきましたし、JC歴5年の中で3回も役を任せてくれた種田理事長には感謝しています。役の声が掛からないのは「期待されてない」ってことでもあると思います。100人(の現役会員)の中で役職に選ばれない自分を許せるのかとも思う。会社に戻って、そんな自分が社員や役員に顔向けできるのか。役を受ける意味は自分で見出すべきとも思いますが、そこに自分が選ばれていないことをどう思うのか。それぞれの立場、事情はあるとは思うけど、青年経済人なら役は目指すべき。それぞれの理想像を思い浮かべた時、役を受けない自分はそれに当てはまるのかな？と思います。



田添 寺澤予定者は『はいかYESか喜んで』って言ったけど、実は自分は真逆で…。最初はどれも本当はやりたくないかった(笑)。25歳で親に入れられて強制的に始めたJCだったけど「嫌だと思うときこそ断らず手を擧げる」と自分に言い聞かせてやってきたんです。

田添 1年続けると辛いこともあるけど、終わった後は達成感があって、次はもっとできるかと考えるようになる。自分を変えてくれたのがJCの環境で、ここまで来られた理由だと思います。こんなやつにこそJCは必要だったのかもしれません。

寺澤 「こんなやつ」とは思えない経歴ですけど(笑)。

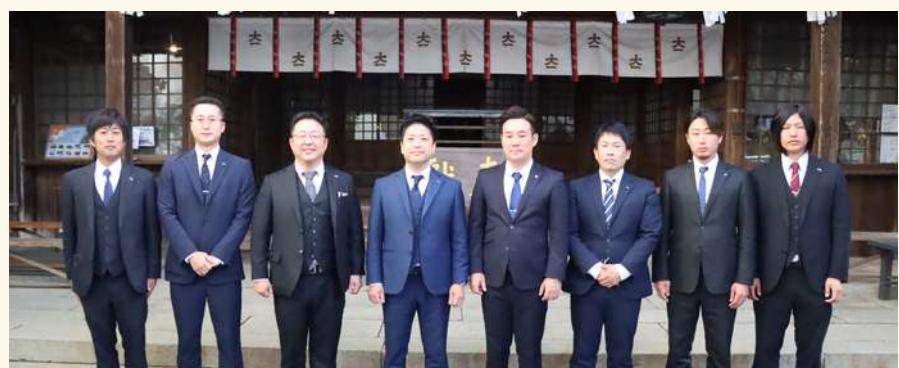
「二人分の人生」

—JCには「古い体質」と捉えられる部分もありますが、組織として残すべき良さや強み、改善するべき点があるとしたら何だと思いますか？

田添 変わらない部分は『Be better(より良くする)』の精神。今はどの団体も人材面で苦しい時代なのに、JCはその中でも熱量が高い。ヘンリー・ギッセンバイヤー・Jr氏がJCをつくったのは、自分達の社会的身分向上のため。ダンスを踊れるようになろう。待ち時間に「暇なら勉強しよう」という発想から始まった。その変わろうとする姿勢は今も例会などに受け継がれていて、これはひととして当然の意識でもある。JCのメンバーはそれが特に強い。仕事とJCで「二人分の人生」を歩くくらい負荷があるのに、それでも続けるのは見返り=自己成長がある。ただ金を払って業務に追われるだけでは損。成長という利益を得て、周りにも影響を与えることが大事。修練・奉仕・友情の三信条は変わらないけど、やり方は時代に合わせて変えていけばいい。それを考えるのが現役の皆さんのが役割だと思う。

種田 JCの強みでいうと、良い意味でこんなに怒ったり怒られたりする団体はない(笑)。

寺澤 いつも怒ってますもんね(笑)。



種田 会社は給料があるから管理で動くけど、JCは「変わってほしい」から、そのひとに本気で向き合って、怒ったり怒られたりする関係が自然と生まれるよね。いつでも自分を追い込む機会があって、自分次第でいつでもそのステージに上がる。そこが魅力だと思う。今年卒業だから余計に思うけど、もしJCに入っていなかったら…どうなっていたんだろうというのを思います。シンプルにずっと天狗だったんだろうな。



寺澤 今でも結構天狗ですよ(笑)。

種田 いやもっともっと、悪い意味で(笑)。社会常識もまだ十分ではなく、今年を振り返っても自分は不完全だと気づかされました。その気づきを40歳までに得ることが大事で、卒業後に家庭や社業にどう活かすかで自分の価値が出てくると思う。その点に各々が気づけることが重要だと思います。田添直前はどうですか？もしJCに入ってなかつたら、何をやっていたと思います？

田添 その話はよくするけれど、正直分からぬ。ここで得たものを身につけていない自分を想像すると、社業においても間違いなく今の自分じゃなかったのは確か。知見も狭く、場合によっては会社を危うくしていたかも知れない。JCを通じて成長し、自信を持てるようになつたからこそ今があるので、それがなかつたら確実によりレベルは低かったはず。JCを他人に説明するとき、よく「99%現実に近いリハーサル」「もう一つの現実のような並行世界」と表現している。社業とは別軸で、本番さながらの経験ができるからこそ、その学びが自分の人生の土台になっていると思う。

寺澤 会社でもJCでも、役を受けるとトラブルに対応する場面も増えますよね。JCに入ってからいろいろありすぎて、会社では怒ることが減りました(笑)。

—寺澤理事長予定者は二人の理事長とも様々なお話をされてきたと思います。バトンを引き継いで、次年度への抱負をお聞かせ下さい。

寺澤 来年のスローガンには『大ぼらを夢に夢を現実に』を掲げました。私が理事長として、大きなことを成し遂げるということではなく、掲げた夢を現実のものにできるひとを育てる1年したい。再来年以降のJCや卒業後の社会人人生で『大きな夢を語り、それを現実にできるひと』を育てたいと思います。

室長や委員長、三役が一人ずつでも次の人才を育てれば、もっと自走できる組織になると思うので、来年はその土台をつくって、以降のメンバーにしっかり組織を残したい。



寺澤 会員に対しても、一人ひとりと対話をする機会を率先して作っていきたいです。理事役員に対しても、メンバーと向き合う機会を増やしていくよう、背中を押していきたいと思っています。担当ラインだけでなく、他所にも興味を持って縦横で議論し合える関係をつくることが私は大事だと思います。常々いっているけど根回しも学ぶべきで、そこも含めて縦横のコミュニケーションを大事にしたい。会社でも社会でも必要なことなので。



「意識と行動のエリートなれ」

—お三方、貴重なお話をありがとうございました。最後に、現役メンバーへメッセージをお願いします。

田添 一言では難しいけれど、JCは『成長するための場』で、そのためには自分で機会を掴まないと何も得られません。アドバイスとして伝えたいのは、必ず『物事の意義を考えること』。委員会の業務でも、ひととの関わりでも、何のためにやるのかを意識すると視野が広がり、成長に繋がる。先輩達も常に背景・目的・手法を議論し、納得しながら結束を高めていました。もう一つは、私達は何者なのかという話。立場や身分ではなく、『意識と行動のエリートなれ』ということ。これだけは何十年続くJCの本質として変わらない部分です。ここを守れば、これからJC活動・運動も必ず発展していくと思います。



種田 田添直前が「意義を考える」と話されました。僕は『機会を掴むための姿勢』が大事だと思う。皆忙しいのに、仕事・家庭・JCという二つ三つの人生を同時にこなしている。その環境に飛び込めるのは、会社や家族が味方でいてくれるから。だからこそ、『一番近い存在をファンにできないと、市民に影響を与えるなんていえない』と思っています。



種田 「今日はこんな学びがある」「成長した」と胸を張って家を出て、帰ってきたらその日あったことを自然に話せる関係が大事です。逆にネガティブな気持ちで行くと、誰も快く送り出してくれない。前向きに楽しむ姿勢が、機会を掴む第一歩だと思います。

寺澤 JCは多くの先輩方が卒業された今でも愛している組織だということを理解してほしい。今のJCに対して先輩が厳しい言葉を掛けるのは、古巣への誇りと愛情があるからこそ。卒業して10年、20年経っても想い続けてられる組織はそう多くない。だから、自分がそのJCに、誓約書まで書いて入った以上、家族や会社と同じように大切に思ってほしい。中途半端でいいのか、もっと良くしたいと思わないのか、と自分に問い合わせてほしい。そして、自分がどう向き合うべきかの答えは他人にいわれて決めるものではなく、自分の内側から出すもの。そうすれば悩んだ時や忘れそうな時に何度も振り返ることができるので。そういう考え方、向き合い方はJC以外の場でも必ず役に立つと思います。

田添最後にこれだけ言っておこうかな、現役に向けて。2030年ぐらいに全国大会主管しましょう(笑)。

寺澤 手を挙げちゃいますか...再来年は日本出向者を増やさないとですね(笑)。

田添 頑張って下さい(笑)。



取材後記 3名の理事長と約1時間お話をさせていただき、それぞれのご経験に裏打ちされた言葉には強い説得力がありました。JCのために貴重な時間とお金を使っているからこそ、自ら積極的に機会を掴みにいく姿勢が必要で、前向きに挑戦し続けることの大切さを改めて考えさせられる内容でした。これで最後の「長崎JCを深堀る！」となります。これまで本企画をご覧いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

渉外広報委員会一同

お殿様・お姫様アンケート

2025年度をもって卒業される8名の卒業予定者の皆様に、これまでのJC活動を通じて感じたことや、正会員に伝えたいことについて、アンケートにご協力いただきました。12月19日(金)には「卒業生を送る夕べ」が開催されます。直接ご本人から様々なお話を聞いてみてはいかがでしょうか？

アンケート内容

9個の質問から好きなものを選択し、3間に回答していただきました！！



① 1年を振り返り、最も印象に残っている出来事は何ですか？	② JC活動を通じて「成長した」「学んだ」と感じたことは？	③ JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか？
④ 後輩の正会員に伝えたいメッセージは？	⑤ 「JCを続ける上で大切にしてほしい」と思うことは？	⑥ 経験から、「これだけは伝えたい」というアドバイスは？
⑦ JCを卒業してから挑戦したいことや目標は何ですか？	⑧ 卒業後、JCでの経験をどのように活かしていきたいですか？	⑨ 長崎JCや地域社会と、どのように関わっていきたいですか？

関 勝太郎 お殿様 拡大室長



① 1年を振り返り、最も印象に残っている出来事は何ですか？

フォローアップで新入会員がJC活動・運動の原点になる事業を達成でき、貢献できる人材を残せたことが嬉しかった。

③ JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか？

多くのひとと交流し、一人では成長できないことを沢山学ばせていただきました。また様々な世代の会員の方々と交流をとおして様々な価値観に慣れ、経験を得ることができました。

⑧ 卒業後、JCでの経験をどのように活かしていきたいですか？

社業を発展させ、人材を残す。個人が良くならないと他のひとを良くすることができない。卒業が最後ではなくて、卒業後が学んだことを実践して、日々成長できるように頑張ります！

田河 毅宜 お殿様



① 1年を振り返り、最も印象に残っている出来事は何ですか？
やはり清祓いです。卒業年度だということを実感しました。

③ JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか？
同世代の繋がり、人脈です。もっと多くの事業に参加して交流を深めたかったと後悔しています。

⑨ 長崎JCや地域社会と、どのように関わっていきたいですか？
今後もOBとして地域活性化のためにV・ファーレンやヴェルカでご協力していきたいと思います。

川原 倫彦 お殿様



② JC活動を通じて「成長した」「学んだ」と感じたことは？
多くの仲間と出会って、人脈も経験も価値観に触れて、自分がどう考えるかより、周りがどうしてほしいかを考えるようになった。

⑤ 「JCを続ける上で大切にしてほしい」と思うことは？
修練、修練、修練、友情、奉仕、やったことが全て返ってくるので大切にしてほしい。

⑦ JCを卒業してから挑戦したいことや目標は何ですか？
夢中になれる1つのことに特化したプロになる。

楊 和樹 お殿様



① JC活動を通じて「成長した」「学んだ」と感じたことは？
色々な経験もできますが、ひととの出会いや繋がりが財産となります。限られた時間の中で多くのひとと接して下さい。

⑥ 経験から、「これだけは伝えたい」というアドバイスは？
環境を変える事を恐れず、チャレンジすること。自らの力で未来を切り拓いて下さい。

⑨ 長崎JCや地域社会と、どのように関わっていきたいですか？
今後もJC事業に参加しますので、斬新でワクワクする事業を待ってます。一緒に長崎を盛り上げていきましょう！！

四元 聰子 お姫様



①JC活動を通じて「成長した」「学んだ」と感じたことは?

仲間と同じ時を過ごし支え合う中で、真摯に寄り添う姿勢が信頼関係を育むと学びました。その気づきが主体的な行動力を生み、多くの成長に繋げてくれたと思います。

②後輩の正会員に伝えたいメッセージは?

JCは誰かの為、自分の為、未来の為に行動する尊さを学ぶことができる組織です。その全ては命があってこそ、家族、会社、社会へ活かすことができます。そのことを忘れずに。

⑧卒業後、JCでの経験をどのように活かしていきたいですか?

JCでの経験は私の生き方の土台となりました。今後はこの学びを活かし、家族・会社・社会への貢献へと繋げていきたいと思います。

田添 太一 お殿様 直前理事長



①1年を振り返り、最も印象に残っている出来事は何ですか?

2025年度新年互礼会でのお礼の挨拶をもって2024年度の職務を全て終えたことです。その一つのことが印象に残っているというわけではなくて、その瞬間入会から今までの道のりが思い返され、よくここまで辿りついたなと感慨深かったです。

③JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか?

私はJCというより「長崎JC」が好きです。代々、特別会員も含めて親睦が深いLOMと思います。JC活動の中で直接知見を得ることも魅力ですが、ひとから学ぶことの方が深みがあると思います。

④後輩の正会員に伝えたいメッセージは?

私の口癖のようなお決まりのフレーズですが『意識と行動のエリート』であって下さい。そこにプライドを持って下さい。ここで言うエリートの意味は、個人や組織の能力や立場を指すものではありません。そこはお間違え無きようお願いします。「考えること」と「動くこと」だけは暑苦しくてガチな集団であってほしいと思います。

⑦JCを卒業してから挑戦したいことや目標は何ですか?

今後は専門性あるものを勉強していくかなと考えています。語学とか資格とか何らかの実技とか。

古本 彩花 お姫様



① 1年を振り返り、最も印象に残っている出来事は何ですか？

All Jayceesです。卒業年度にたくさんの方に来ていただいた事業に関わられて良かったです。

③ JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか？

組織の在り方や事業を構築していく過程など、会社の運営に繋がることを学べました。

⑤ 「JCを続ける上で大切にしてほしい」と思うことは？

JCには自分がのぞめば学べる場がたくさんあると思います。一つ一つの機会をできる間に経験してほしいと思います。会社に還元！

種田 和彦 お殿様 理事長



③ JCで得られた財産(人脈・経験・価値観など)は何ですか？

仕事だけでは得られない「経験」ですね。「仕事」という自分のテリトリーとは異なる空間だからこそ、得られるものが違います。その空間を深く考え、入り込むことで、得られるものは比例して増えたと思います。

⑤ 「JCを続ける上で大切にしてほしい」と思うことは？

「ちょっと背伸びをする」ことによって、「できなかった(苦手なこと)が少しずつできるようになる」感覚を大切にしてほしいです。ほんの少しだけ「無理をする」ことで、自身の新たな一面を見つけることができると思います。

⑦ JCを卒業してから挑戦したいことや目標は何ですか？

直前理事長として残ることになるので、2026年は特に若いメンバーのみなさんと関わりたいですね。嫌がられない程度に、適度な距離感は保ちます(笑)。その中でJCの楽しみ方、活かし方を伝えたいです。

お殿様、お姫様、この度はご卒業おめでとうございます！

これまで長きに渡り長崎JCにご尽力いただき、誠にありがとうございました。卒業されるのは少し寂しいですが、一緒に過ごした貴重な時間を忘れずに、これからも益々のご活躍を祈念申し上げます。

11月会務室担当例会

「運動を起こす原動力～16万円の価値を問う～」



11月12日(木)、ホテルニュー長崎にて11月会務室担当例会が開催されました。

「運動を起こす原動力～16万円の価値を問う～」と題し、まちづくり・ひとづくり・出向を経験した4名の代表者インタビューを実施し、JCで得た経験や、活動・運動をとおして見出した意義や価値について語っていただきました。実際に経験しないとわからない組織での苦労や、やりがい、ひととの出会いを聞くことで、次年度以降の活動への意識、組織運営に参画する当事者意識を高める時間となりました。

後半はグループディスカッションを行い、各グループが発表をしました。16万円の価値の感じ方はひとそれぞれですが、役員として組織を動かす立場に立つ、もしくは、JC活動・運動に積極的に参加すればするほど、その価値は高まると再認識することができました。地域のために運動を展開していくためには、私達が主体的に動ける人材として成長しなければなりません。そのためにも、一人ひとりが当事者としての姿勢を再認識する、意義ある例会となりました。



12月例会・定時総会



12月9日(火)、ホテルニュー長崎にて、12月例会・定時総会が開催されました。冒頭に、種田理事長より2025年度の振り返りとともに、各委員会・事務局へ、これまでの感謝の言葉をいただきました。

定時総会では、第1号議案「第74年度監事予定者指名承認」において、大平 大樹君が監事として指名され、承認されました。そして第2号議案「第74年度事業計画(案)」、第3号議案「第74年度収支予算(案)」が承認され、これにより第74年度の体制が正式に決定しました。

最後に、第73年度 種田理事長より、第74年度 寺澤理事長予定者へ理事長バッジが受け継がれ、プレジデンシャルリースの伝達式が執り行われました。また、スローガン「大ぼらを夢に 夢を現実に」のもと、新年度の方針が示されました。



2025年度の例会振り返り

JCサイコー!!

良くも悪くも、青年会議所というものは伝統を重んじる団体です。そういった中でも、時代に即してJC活動・運動をしていく中で、必ず変化をしなければいけない場面が出てきます。変えてはいけないものは、情熱を持って維持をする。変えなければいけないものは、勇気を持って変える。変えてはいけないものか、変えなければいけないものかを、英知と勇気と情熱を持って判断する。これが青年会議所活動の中では、凄く大切です。

11月例会 最後の監事講評より抜粋



峰外部監事
1年間ありがとうございました。



第73年度新入会員フォローアップセミナー事業

「RE:ADY FOR TOMORROW～ゼロから始める防災意識改革～」



11月15日(土)、勤労福祉会館にてフォローアップセミナーが開催しました。近年、市民の防災の意識の低さが問題となっており、「一人ひとりの防災意識を高める」ことを目的に新入会員が中心となり取り組みました。



まず、市民を対象に各所で防災意識の調査を実施。524件のアンケートの回答をいただきました。そして、熊本JC、長崎市消防局、長崎大水害を経験された第30年度理事長 村木 燕介先輩に話を伺い、事業を構築しました。



当日、長崎の被災の歴史、災害時の対応、防災意識について発表を行いました。自身の生命を守る行動や知識『自助』、近隣住民同士での相互支援『共助』、公的組織の対応『公助』を学びました。

また、自治体の支援体制が整うまでの『72時間の壁』の重要性にも触れ、個々の備えと防災意識の向上が呼び掛けられました。次に、防災シミュレーションゲーム「はじめての町」を実施し、チームで協力しながら、災害時の対応を模擬体験しました。防災は国家的な課題であると同時に、個人や地域レベルでの対応も不可欠です。会員一人ひとりが地域リーダーとしての自覚を持ち、個人と行政の橋渡しとなることが求められます。一般社団法人熊本青年会議所から専務理事 藤原将和君をはじめ5名の方々にオブザーバーとしてご参加いただき、誠にありがとうございました。

第73年度新入会員フォローアップセミナー懇親会

「THE FIRST TALK ~ミャクミャクと受け継がれるJCソウル~」



フォローアップセミナー後、矢太樓にて懇親会を開催しました。新入会メンバーが主体となり、コンセプトの策定、会場との打合せ、余興企画の立案、道具の制作に至るまで、約3か月間にわたり準備を重ねて、「先輩方に楽しんでいただきたい」という想いを胸に、力を合わせて設えた懇親会です。

新入会員の紹介動画を上映し、各テーブルを回り先輩方とゲームを行うなど、委員会の枠を越えて交流が深まる時間となりました。また、同期会名「波(73)会」が発表され、同期会長の西村海心君が発表されました。本事業をとおして、新入会員は

「JCの一員になれた」という実感をより強くし、同期同士の絆も一層深まりました。これからも仲間とともに切磋琢磨しながら成長し、JC活動に励んで参ります。





実行委員長・同期会長 西村 海心君

皆さんご協力ありがとうございます。性格や能力、職業、生活が違うひとが力を合わせて、1つのことを作り上げるには各人が主体的に事業に参加いただけるような工夫や巻き込む力が重要であり、自分には不足していたと思います。ただ、同期の皆が助けてくれたことで仲間の大切さにも改めて気付きました。



実行副委員長 折式田 一尊君

皆を引っ張ってまとめてくれた西村実行委員長に感謝です。私自身、動けない中でできることは何か。どこで時間を作っていくかに貢献できるか。そこが勉強になりました。最後に有終の美を飾れたことは紛れもないメンバー全員の力のおかげです。このメンバーでやれて良かったです。本当にありがとうございました。



運営幹事 佐藤 健人君

チームで動くことの難しさと大切さを感じました。会員拡大委員会の皆様、フォローしていただきありがとうございます。セミナーでは辻君、ワークショップでは青木君、懇親会では勝部君が中心となって引っ張ってくれました。試行錯誤の連続でしたが、73の同期の皆でなければ成し遂げられなかつた事業でした！



2025年度 ジャガイモ倶楽部 12月例会



12月3日(水)、喜々津カントリー倶楽部において、本年度最後の12月例会を行い、夜にはオルテンシア長崎におきまして、納会を開催し、盛会にて終了しました。特別会員・正会員の皆様プレゼントのご協賛いただきましてありがとうございました。



優勝 第69年度卒業山口潤先輩



2025年度代表幹事
北島 秀基君

1年間支えて頂いた幹事の皆様始め、ご参加頂いた皆様のおかげです。最後になりますが、2026年度以降におきましても、現役と特別会員の交流の架け橋となることを祈念しております。1年間沢山のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。



2025年度じゃがいも倶楽部幹事一同



2026年度代表幹事
倉富 貴大君

初めての方でも参加しやすいよう、練習から気軽に声掛けしやすい体制を作りたいです。1人でも多く方々にご参加いただけるような運営をしていきますので宜しくお願いします。

長崎JCとは



※クリックで紹介動画が見られます

長崎JCは1952年12月に発足し「明るい豊かな社会」の構築を念頭に置いて、我々の郷土長崎のみならず、長崎県、九州、日本、そして世界に貢献できる様々な事業を展開して参りました。

我々、長崎JCは「修練」「奉仕」「友情」という三信条のもと、20歳から40歳の青年達が次世代を担う地域のリーダーとなるべく、様々な研修やセミナーを重ねて、個人の資質を向上させ、地域社会に貢献できる人材の育成に努めています。

また、より良い長崎にする

ために奉仕の精神と郷土愛を胸に、活発な議論を交わし、知恵を出し合いながら「ひとつづくり」「まちづくり」のための様々な事業を展開しております。そのような事業を通じて共に汗をかき、達成感を共有できるかけがえのない仲間を作ることも魅力のひとつです。



今後のJCニュースに活かして
参ります！！アンケートのご回
答を宜しくお願ひ致します。



一般の方は
👉コチラ



特別会員は
👉コチラ



正会員は
👉コチラ

フォロー、登録をお願いします。

INSTAGRAM



FACEBOOK



X



YOUTUBE



長崎JCホームページ



会員名簿



新着情報

過去の
JCニュース